

NO212

泉南走ろう会

泉南スポーツ社
0724(83)4663

ウルトラマラソンに思う

岡田

何年か前までは、マラソンと言えばフルマラソン(四二・一五九キロ)であり、そして誰もが、一流ランナーのレースをテレビで観戦し、自分も走れるものなら一度はフルマラソンを走ってみたいと考えたものであった。しかし今では、マラソンにウルトラのついたレースが、ここ最近増え、あちらこちらで行われる様になり、参加者も急上昇中である。では何キロを持ってウルトラと言うのか、はっきりとしたものがあるわけではない、しかし、ウルトラ名の付く大会が増えた事は事実短いものでは、七十キロから長いものでは、二五〇キロ、三〇〇キロ、一〇〇〇キロ挙げればきりが無い。

「人間は常に冒険を求め、挑戦し続ける」ただ単に走るだけの単純な競技であるマラソンに距離という目的で挑戦しているのがウルトラマラソンではないだろうか、ウルトラを走ること自分の力を試したい、又自己満足を求めて走るのでないか、フルを走って来たランナーは自分なりの自信を持っている。それを後少し努力する事で、又次のステップ(距離)を走ることが出来る。一〇キロも走った事のない人が突然一〇〇キロを走ることが無理な話である。たいていの人は段階を踏めば、ウルトラを完走する事が出来るはず。後は挑戦する気持ちが大切である。

ところでウルトラを走る人には、以外と高齢者(何歳から高齢者とするか問題ではあるが)が多い、五月に参加した秋往還では特に、感じたところである。ウルトラの楽しみ方も人それぞれ、常にマイペースで制限時間をフルに活かし、完走する事のみ。その中でその土地の景色を楽しみ、写真を撮りながら走る人、ポランティアの方や同じレースに参加したランナー達とコミュニケーションをはかり友人を作る人、又、必ず行われる前夜祭、完走パーティーで友好を深める人、フルには無い楽しみ方がウルトラにはある。そして何にも代え難いのは、完走出来た時の充実感であり、満足感であろう。これがあから又、ウルトラを走ることになる。一種の中毒者と言えるかもしれない。ウルトラは完走する事がすべてではないと思う。距離が長ければ長い程、完走が目標となることも事実だが、完走出来なくても誰に恥じる事があるか。又、完走出来なかったことをどう言うものでもない。挑戦したこと、挑戦する事を讃えるべきだと思う。

「人間七転び八起き」私も また来年二五〇キロ完走を目標に挑戦するつもりだ。

お詫び

会員の皆さんへ7月号機関紙の発行が遅れてしまい申し訳ありませんでした。

事務局(岡田)



お知らせ

一、例会

・八月八日 九時集合

場所 種河神社

コース 未定

・八月二十二日 九時集合

場所 種河神社

コース 未定

注、八月二十二日の例会には、岡田は珠洲トリアスロン参加のため、例会には出席出来ませんのでビールの準備はありません、出席者で準備お願いします。

二、大会案内

一年の過ぎるのが早く感じられる。歳のせいなのか!そんなことを思っていると、もう、秋のマラソンシーズンの大会案内が何通か届きました。梅雨も明け夏本番となりますが、秋の大会に向け無理をせず、自分なりの練習をして大会に参加しましょう。

(一)、吉野川ハーフマラソン

開催日は、十一月七日で申し込みは、九月二十四日となっています。

泉南市からは、車で一時間半あればいける距離でコースとしては、フラットで走りやすいと思います。

参加費は、三五〇円です。

(二)、福知山マラソン(フル)

この大会は、十一月二十三日(火)の祝日に行われます。最近人気が高く、三月の篠山マラソンを越えた感があり、ランナーズでの人気投票でもベスト5に入っていると思います。コースとしては、由良川沿いを走るため全体的にフラット、ただし、スタートしてすぐに約二キロの下りがあり、帰りの四十キロから登り坂となり、ここが一番の頑張り所となります。

申し込みは、先着順、但し後になれば参加費も一〇〇〇円アップになるなど今年はずっと変則な様です。

(三)、神鍋高原マラソンについてですが参加者の最終確認をし、旅館に連絡をしたい

と思いますのであらかじめ電話させていただきます。その時に参加方法、時間も連絡したいと思います。

七月二十五日の例会に確認した所では、粟野原会長、堀池さん、徳山さん、宮下さん、森野さん、住吉さん、岡田の友達、岡田の八名が申し込みられています。